

第49回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成27年10月22日(木) 午後4時30分～午後6時50分
開催場所	滝川市役所3階 301・302会議室
出席状況	【委員】 出席：石川委員長、山田副委員長、藤本委員、本多委員、高橋委員、 越後委員、水戸委員、貝之瀬委員 欠席：佐藤委員、岸下委員 【事務局】 くらし支援課 横山課長、半井課長補佐、大橋係長、酒井主査、金子主任級主事
議事内容	1 開会 2 報告事項 (1) 滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書(案)について 前の会議で委員より指摘を受けた部分について、修正箇所を説明した。 (→資料1) 各委員からの意見等はなし。 3 協議事項 (1) 第二次滝川市環境基本計画について ※第二次滝川市環境基本計画ワークショップ 事務局より説明を行った。 今回のワークショップの進め方(タイムテーブル)の説明 ワークショップ検討過程の説明(→資料2) A、B各グループに分かれて協議を行う。 Aグループ 16:45～16:55 ○前回のワークショップ内容(模造紙)を提示。前回までの内容をリーダーが説明した。(振り返り) ○前回の「現状・課題」、「あるべき姿・目指すべき姿」、「手法・施策」に分類し、事務局で模造紙にまとめたものを基に各項目の足りない部分、協議が必要な部分を抽出、整理し、各項目の目標を設定する。 16:55～17:40 ■エネルギーを無駄にしないまち(地球環境) ◎前回のワークショップで足りない部分の補足 ●気候変動・災害 補足部分：「手法・施策」が防災についてのみの内容になっているため、防災だけではなく気候変動についても記載が必要なため。 防災は、別途「滝川市地域防災計画」がある。 ・被害の少ないまちづくり。

- ・異常気象などの知識を得るための場を増やす。
- ・地域ごとに異常気象に対する防災対策やその方法が違うのでその地域できちんと示すべきである。
- ・異常気象も温暖化によるものだと思う。
(※現時点で異常気象と地球温暖化の関連メカニズムははっきりと解明されていない)
- ・温暖化 (CO₂) のことを詳しく知るべきではないか。

●地球環境を知る

補足部分：「現状・課題」、「手法・施策」に対応する「あるべき姿・目指す姿」が示されていないため。

- ・日本全体の CO₂ 削減量 18% 目標。(2030 年温室効果ガス削減目標 1990 年比)
- ・この目標値に対し教習所内で取り組んでいるが、他へのつながり、広がりがないので、もっと周知され、取組を増やすべきではないか。
- ・環境に関する情報は行政から待っている状態なので、情報がすぐわかるようになればよい。
- ・環境に関する情報、窓口が少ない。ガイド、拠点があると便利。
- ・情報を個別、個別で探している。
- ・情報が点在しており、情報が 1 か所で分かるようになればよい。

◎「地球環境」の目標を設定するために出された意見

- ・オゾン層の破壊による地球温暖化とそれによる災害が増えている。
(※現時点でフロンによるオゾン層破壊と地球温暖化の関連メカニズムははっきりと解明されていない)
- ・地球環境は、地球規模の大きな問題なので、滝川だけではないことから身近に感じられず、関心が低くなりがちなのが問題である。
- ・地球環境の問題を知るには、情報収集が大事だと思う。
- ・情報を知ること地球環境問題の原因を知り、地球環境問題を身近に感じることが出来る。
- ・滝川以外の地球環境問題を身近に感じることができるようになるまちになればよい。
- ・滝川市で地球環境の情報をいちはやく見ることができ、その情報の数値が市民にわかりやすく伝わればよい。

17 : 45 ~ 18 : 30

■環境にやさしい循環型社会が営まれるまち（生活環境）

◎「生活環境」の目標を設定するために出された意見

- ・ムダ使いの多いライフスタイルを見直す機会を作ることが必要。
- ・エコライフ実践のために意識づけしていくことが必要。
- ・リサイクルだけではなくリユース、リデュースも積極的な活用をしよう。
- ・数値目標も大事だが、数字を使わないで目標を立てられないか。
- ・ごみにしない仕組づくりとエコライフスタイルが実践されるまち。
- ・省エネを心掛けた生活をしよう。
- ・まとめ買い、無駄使い、もらいすぎ (3M) をしない。
- ・これまでのごみ回収や取組は継続すべきである。

- ・1人あたりのごみ排出量の目標を決めることでごみの量を減少させることができるのではないか。
- ・ごみを出さない、ごみにしない仕組作りが求められている。（例えば包装を省くとポイントが付くなど）

18：30～18：50

◎まとめ

●地球環境の目標

「地球環境を身近に感じられるまち」

- ・自然エネルギーの活用など地球環境を知ることが身近にない。
- ・滝川のごみ処理施設やLED、太陽光などの省エネ機器や設備を導入した施設をいろいろな人にみてもらうことで環境やエコの取組を身近に感じることができるので、情報発信（PR）することが必要である。
- ・災害についても気象などと同様に市民にいち早く情報を発信していくことが必要



B グループ

16 : 45～16 : 55

○前回のワークショップ内容（模造紙）を提示。前回までの内容をリーダーが説明した。（振り返り）

○前回の「現状・課題」、「あるべき姿・目指すべき姿」、「手法・施策」に分類し、事務局で模造紙にまとめたものを基に各項目の足りない部分、協議が必要な部分を抽出、整理し、各項目の目標を設定する。

16 : 55～17 : 40

■自然と触れ合い、自然と生きるまち（自然環境）

●森林に関する意見

- ・空知太の滝川第一小、滝川第三小の学校林は整備されていないがどうなっているのか。

※砂川市空知太 142,798 m² 所管課 農政課

※西小学校林も有 砂川市富平 53,255 m² 所管課 農政課

- ・植林により得られた資金を学校改築や教材購入等に充てるため、整備されたものだが現在は使われておらず、実際に木を見て森を学ぶことができる良好な場所だが現在学校の授業では使っていない。
- ・気軽に学べる、体験できる場所（森だけではなく川も同様）があれば良い。
- ・身近な自然を教えることができる先生が少ない。
- ・学校で先生が教えられない場合、外部講師として、空知総合振興局森林室の職員に出前授業の講師になってもらえないか。
- ・学校林を体験学習などに活用できるよう整備してほしい。（伐採、道路の草刈り等）
- ・身近な体験環境を整える。（例：千歳市青葉公園 親子で楽しめる）
- ・自然環境を考える機会を増やす。
- ・自然を自分の中で感じることができる、自然環境を考える場を増やす。
- ・ごみ捨てがなぜ悪いかを教えることで、ごみと自然をつなぎ合わせて考えることができるようになるのではないか。
- ・森林を知る機会と学ぶ場を与えることが必要。
- ・自然が残っている公園は多いが木の種類が少ない。学校林は針葉樹、広葉樹など樹種が多いので、環境学習に適している。
- ・学校もカリキュラムもあり、体験学習をこれ以上増やすことは難しいかもしれない。
- ・親子が気軽に行け、身近な自然を楽しむことができる環境をつくる必要がある。
- ・未来を担う子どもたちを育てるためには、自然体験を通じて危険を知ること大切である。
- ・なぜ木を植えるのかを伝える人を育てる。（森は川を作り、農家を発展させるという繋がり）

●川に関する意見

- ・千歳川には、鮭が上り、鮭を見に来る人がいる。身近なところで自然を見ることができる。
- ・大人も子どもも自然と触れ合うことが大切である。
- ・川を身近な遊び場として整備することは難しい。

- ・国や道が管理しており、以前要望したが実現しなかった。
- ・学校でできないことは、もっと民間の力を利用してもいいのではないか。
(各種団体を含め)
- ・自然の大切さや素晴らしさを伝える人、環境学習リーダーの育成。
- ・エコ部の活動として取り組むのも1つの方法。
- ・知識を蓄えて市民に伝えることが大切。
- ・少しずつ学習し、継続して行うことが大事、市民へのアピールになる。
- ・新しいものを作るだけでなく、今あるもので活用して学習や活動を行うことも大切。

●農業に関する意見

- ・新聞で見たが、将来の後継者を育成するため農業体験を積極的に受け入れ活動を行っている人もいる。
- ・食につながる農業体験や、実際の農産物を見る機会があれば良い。
- ・受け入れ農家の減少について、滝川の農家は、後継者がいない高齢者が多いのか。
- ・意図的に行う自然学習も大事だが、日常の中にも自然があると感じられるようになることが大切。
- ・生活と自然が分離してはいけないと思う。
- ・そのためには、普段からどうすればよいかを考えていくことが大切。
- ・活動を企画する際、日常生活の中に自然が溶け込んでいくという発想が大切、一過性のイベントではなく、継続が可能な取組が大切。
- ・持続することが大事、細く長く自然を感じられること、どんな人でも取り組めること。

17 : 45～18 : 30

■多様な主体や世代が協働して環境保全に取り組むまち（環境コミュニティ）

●環境教育に関する意見

- ・環境学習は、環境を知ること。
- ・どんな人でもできる環境教育とは何か。
- ・環境リーダーの活動などをPRする機会を増やす。
- ・環境リーダーの数を増やすことが大事、100人リーダーを育成するなどの目標も必要。
- ・リーダーの育成は行ってきたが、並行して一般市民へのアクションが必要、興味を持ってもらうことが大切。
- ・様々な人や世代をつなぐ専門家も必要。
- ・3Rなどと絡めて具体的に考える。
- ・市内の人材・素材を活用し、故郷の環境自然を学び郷土を大切にする育成。
- ・育てる、継承する、維持していくことで、学び続けることの仕組づくりを構築すること。
- ・10年20年の長期スパンで見ることでも大事である。
- ・環境教育をステップアップして段階的に進めていくことが必要ではないか。
- ・人間も環境の一部である。
- ・人材を「育てる」ことで環境を守ることにつながる。

●食育に関する意見

- ・食育を発信していくことがキーワードになる。
- ・どうやって発信していくか。
- ・レシピ紹介→軽トラ市で紹介していた。
- ・料理しなくても買える時代、食べられる時代。自炊、料理の楽しさが続かない。
(学生)
- ・「食」の楽しさ、大切さを知ってもらう、興味を持ってもらうことが大切。
- ・「食べる」ということを伝えることが必要。

18:30～18:50

◎まとめ

●自然環境

- 「育てる」「五感を使った体験」「身近な自然」がキーワード
- ・身近にある森林や川があるがその魅力や理解されていない。
 - ・農業体験の受け入れが難しくなってきた。
 - ・たきかわの農産物が市民に十分に認識されていない。
 - ・樹木の維持管理を行い、木のことをきちんと学ぶことが大事。
 - ・川についても木と同様に川のことを理解し学ぶことが必要。
 - ・身近な自然の情報発信をしていくことが必要なのではないか。
 - ・身近な自然の取組が大事。
 - ・日常生活において自然が身近に存在していることを理解してもらうこと。
 - ・ゴミ問題などに関連して考えることでより自然環境の関心も深まる。

上記の意見が出たことから整理し、自然環境の目標とする。

「自然とふれあい、自然と生きるまち」(事務局提案)



「身近な自然とふれあうことで自然とともに生きるまち」

●環境コミュニティ

- 「育てる」「維持・継続」がキーワード
- ・環境教育に十分な時間が取れていない。
 - ・食育は便利で豊かになりすぎて食のありがたみが薄くなった。
 - ・食育も環境教育情報発信が大事。
 - ・環境リーダーを増やして活用すること。
 - ・環境リーダーを育てること。
 - ・少しずつ進めていくことで見直されていくのではないかな。

上記の意見が出たことから整理し、第48回委員会のワークショップ、「環境教育」の「あるべき姿・めざす姿」で出ていた項目を環境コミュニティの目標に移したことからその項目を使用。

「市内の人材・素材を活用し、故郷の環境、自然を学び郷土を大切にする育成」



「故郷の自然環境を学び郷土を大切にする人を育成するまち」



(ワークショップまとめ)

事務局) ワークショップでいただいた意見については、事務局で内容をまとめ、整理した上で、基本計画に反映させていく。

次回までに基本計画の案を作成し、内容に関してご意見をいただく。

4 その他

次回スケジュール説明

- ・事務局より次回開催日について説明
- ・次回会議は11月24日(火)15:30~予定

5 閉会

会議資料	資料1 滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書（案） 資料2 ワークショップタイムテーブル、進め方
------	--